



消防だより

問 消防本部予防課 ☎22-0332 FAX 22-9427

着衣着火にご注意ください

ガスコンロやロウソクなどの火が、衣服の裾や袖口などに着かないように注意しましょう。

【火災事例】

▶奥にある鍋を取ろうとしたり、換気するためコンロ越しに窓を開けようとして、手前にあるコンロの火が裾や袖口に着いた。

▶たき火をしていて、火が風にあおられ衣服に着火した。

【対策】

火が衣服に着かないように注意し、燃えにくい防災品を着用するなどの対策をしましょう。

万一、火が着いてしまったら、水をかけて消火するか、近くに水がない場合は、その場に倒れて手で顔を覆い左右に転がり、消火しましょう。

高齢者世帯防火診断を実施します

▶高齢者を火災から守ることを目的に、秋季火災予防運動の一環として、高齢者世帯防火診断を実施します。消防職員が高齢者世帯を訪問し、電気やガスなどの火気使用や取り扱い状況、住宅用火災警報器などの設置・維持管理状況などを診断し、**防火安全のアドバイスなどを無料で**行い、高齢者世帯の防火意識の高揚と出火防止を図るものです。

▶高齢者のみで居住されている世帯で防火診断を希望される人は、予防課まで、直接電話などで申し込んでください。



プロのアドバイスで
安心・安全！

チケット情報

ひこね市文化プラザ

10月22日(日) 12:00 メッセ棟1階展示ロビー
文化プラザロビーコンサート

【自由】【10月1日(日) 9:00～ 入場整理券配布】観覧無料
＜出演＞彦根リコーダーアンサンブル、彦根室内合奏団、
滋賀県立大学吹奏楽部(管打楽器アンサンブル)

※YouTubeで生配信予定あり

※当日13:30から、エコーホールにて彦根市民音楽祭実行委員会主催「秋の市民音楽祭」を開催！

12月24日(日) 14:00 メッセホール
**彦根ゆかりのアーティストシリーズ
Joyful Concert ークリスマスの調べー**

【自由】【好評発売中】 一般500円 友の会450円
※小学生以下無料 (席が必要な場合は要チケット)
＜出演＞高木充江(ソプラノ)、比口悦子(ソプラノ)、神永強生(ピアノ)、
今堀智子(ピアノ)

彦根ゆかりの音楽家が集いアリアからピアノソロまで、心温まるクリスマスの音楽をお届けします。

2024年2月4日(日) 16:00 グランドホール
**三山ひろし15周年記念コンサート
～ありがとう感謝を込めて**

【指定】【10月21日(土) 9:00～ 友の会予約開始】
友の会6,000円
【10月28日(土) 9:00～ 一般予約開始】
一般6,600円



申込・お問い合わせ先 チケットセンター ☎27-5200 (9:00～19:00)
チケットはインターネットでもご購入いただけます。https://bunpla.jp/
10月の休館日：2日(月)、10日(火)、16日(月)、23日(月)、30日(月)

みずほ文化センター

10月21日(土) 14:00 多目的ホール
**彦根亭 みずほ寄席
vol.50「神奈川公演」**

【自由】【好評発売中】
前売:500円 当日:600円
【小学生以上】 【託児あり(有料・要予約)】

お馴染みの松竹芸能の愉快的な面々が笑いを届けます。漫才/土方兄弟・漫談/代走みつくに・落語/桂治門、笑福亭伯枝の4組が出演します。

香西かおり コンサート

11月11日(土) 14:00 多目的ホール

【指定】【好評発売中】
前売:3,000円 当日:3,500円
【小学生以上】 【託児あり(有料・要予約)】

1988年レコード・デビュー以来、「流恋草」「無言坂」など数々のヒット曲を出し続ける、ポップスも歌える実力派演歌歌手・香西かおりのコンサート。



申込・お問い合わせ先
みずほ文化センター ☎43-8111 (9:00～17:00)
10月の休館日：3日(火) 10日(火) 17日(火) 24日(火) 31日(火)

◎表記の価格は全て税込価格です。
◎入場制限のある公演は、託児サービスを実施します。
子ども1人1,000円。各ホールまで事前予約が必要です。

【ひこね市文化プラザ各公演 発売初日の予約の取扱い】
※電話予約・インターネット予約のみの受付となります。
※窓口でのチケット引き取り・販売は翌開館日から承ります。

彦根城博物館 ☎22-6100 FAX 22-6520

https://hikone-castle-museum.jp/

開館時間 8:30～17:00 (入館は16:30まで)



博物館だより

企画展

10月4日(水)まで

「関東大震災から100年 災害と井伊家伝来資料」

多くの井伊家伝来資料が失われた大正13年(1923)の関東大震災を中心に、災害と井伊家伝来資料の関わりを紹介します。

10月7日(土)～11月6日(月)

「大名と菓子一百菓繚乱」

江戸時代、菓子は、幕府の儀礼の場で重用され、江戸は、菓子作りの先進地であった京とともに、菓子文化の中心地となりました。江戸の菓子は大名を介し国元に伝えられ、特色ある菓子が各地で生まれる契機となりました。本展では、精緻を極めた菓子木型や雛形、茶会記などから、江戸時代に花開いた大名たちの菓子文化を紹介します。

■スライドトーク

【日時】10月7日(土) 14:00～
(30分程度)

【講師】当館学芸員 【場所】講堂

※無料(観覧料は別途必要)

※当日受付(先着50人、受付は13:30～)



▲多賀杓子菓子器

特別展

関連講演会「井伊家と菓子」

江戸時代を中心とした菓子文化の特質について理解を深め、特別展をより一層楽しむための講演会です。展覧会担当学芸員が、彦根や井伊家ゆかりの菓子にまつわる記録や作品をひもときます。



▲御干菓子御見本
(名古屋市蓬左文庫蔵)

【日時】10月14日(土) 14:00～15:30

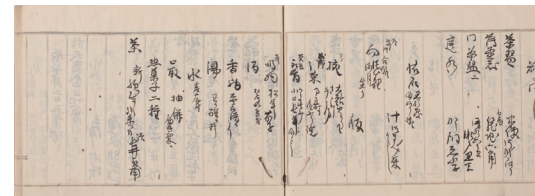
【講師】当館学芸員 【場所】講堂

※資料代100円(観覧料は別途必要)

※当日受付(先着50人、受付は13:30～)

■【休館日のお知らせ】10月5日(木)
■10月4日(水)、同6日(金)は、展示替えのため一部休室します。

3年8月26日(金) 彦根水屋帳 安政



掲の『懐石弁』にも記される「口取」で、濃茶に取り合

直弼は、自筆の茶書『懐石弁』で、「口取は主が心を用いてふるまうものなので、よく味わって食べ、場合によっては、もう一つと所望すれば、ことさらに亭主が喜ぶものである」と述べています。ここにある「口取」とは、茶会で出される菓子のことです。茶会で菓子のおかわりを所望すると喜ばれると記すのは、知る限りで他の茶人の書では見当たらず、直弼の菓子への思いの強さが垣間見えます。

直弼が茶会でふるまった菓子の内容は、彼が主催した茶会の記録(写真)に残されています。これを見ると、一回の茶会で二種の菓子が提供されていることや、菓名、取り合わせなどの具体的な内容を

写真の作品は、特別展「大名と菓子一百菓繚乱」で10月7日(土)～11月6日(月)の期間、展示します(期間中無休)。

大名の武張ったイメージに菓子はそぐわない印象がありますが、近年の研究により、大名の贈答の品として菓子が重用されたことや、時には大名が好みの菓子を御用菓子屋に作らせるなどして菓子に趣向を凝らし、楽しんでいたことが分かってきました。実は大名こそが、江戸時代の菓子文化の醸成を牽引したと言っても過言ではないのです。【彦根城博物館学芸員 奥田 晶子】

口取は、格式の高い濃茶に合わせる菓子であるため、多彩で凝った内容です。3月の会では、桜餅やよもぎを練りこんだ草求肥、8月の会では、柚餅とともに、薄く切った栗と想像される「へぎ栗」が出され、12月末の会では、紅白の餅を椿の葉で包んだ椿餅が用いられています。また時には直弼が自ら作ったお手製の「麩の焼」をふるまうこともありました。これらの記録から、直弼が、四季や客、場所にに応じて菓子の趣向を凝らす様子がうかがい知れるのです。

せて出され、饅頭や羊羹などの生菓子が用いられています。もう一種は薄茶に合わせて出される「惣菓子」で、型押しで様々な形に仕上げた落雁などの干菓子です。茶会記には「友千鳥」や「松葉」などの名がその品目として記されています。

大名と菓子 井伊直弼の茶会記から

とまの玉手箱

博物館からのメッセージ

第325回